

# 世界で活躍する獣医師シリーズ①—1

## 靖先生(🇯🇵&🇦🇺&🇮🇳)

今回の獣 TIMES コラムでは、オーストラリアの獣医大学を卒業し免許取得後、小動物臨床で働きつつ獣医系の翻訳や通訳としてご活躍をし、現在はインドにて動物病院作りに精力的に取り組まれている靖先生(TWITTER アカウント@VET\_YASS)にお話を伺ってきました！

海外に興味のある皆さんにとって、モチベーションとなるお話を 3 回に分けて配信していきます！



### 【第 1 回】

先生がオーストラリアに渡ったきっかけは？  
 インドに行ったきっかけは？  
 オーストラリアの獣医大学に入るにはどうしたら？  
 大学のカリキュラムは？何年制？  
 学生数は？

### 【第 2 回】

オーストラリアの学生生活について。  
 印象に残った実習は？  
 サークルや飲み会は？  
 恋愛事情は？

### 【第 3 回】

インドでの暮らしは？  
 インドのペット事情は？  
 3 カ国を比較してみると、、、  
 海外に興味のある若者へメッセージ



## 世界で活躍する獣医師シリーズ①-1

# 靖えもん先生(🇯🇵&🇦🇺&🇮🇳) 第1回



実習で行った羊の牧場



大学の駐車場に出現する  
Red-tailed Black Cockatoo



Wildlife Park の病院にて  
麻酔下検査中のコアラ



Wildlife Park の病院にて  
橈骨骨折の整復手術中のアカカンガルー

獣 TIMES(以下獣)：靖えもん先生、この度はお忙しい中インタビューを引き受けてくださり誠にありがとうございます。

さっそくですが、**先生のご経歴と現在のお仕事までの経緯について教えてください。**

先生：自分は高校まで関西で生まれ育ちました。実は、自分は海外にゆかりのある親戚・知人は一人も居らず、「**日本を出ないのに英語なんて必要ない**」と豪語するほどの英語嫌いだったんですよね…。

獣：関西出身なのですね！

英語が嫌いだったのに、なぜオーストラリアの大学に行くことになったのでしょうか？

先生：現役で日本の獣医大学に合格しなかったので、「**また1年“受験勉強”をするより、苦手な英語を克服した方が将来の伸びしろあるのでは？将来的に絶対英語は必要になるんだし！**」という若気の至りと言いますか、勢いと言いますか(笑)。

獣：なんと！素晴らしい行動力ですね？！

先生：ただ実は他にマジメな理由もあって。高校生当時にクラスメートから噂で聞いた、獣医大学で行う動物実験・実習に対してとても葛藤がありました。「**学ぶために避けて通れない道だから**」と無理やり自分を納得させてはいたのですが…。そんな中で「**海外であれば解剖や実験にも代替法がある**」と聞いたのも、**留学を決意した理由の一つ**です。

獣：確かに、海外の方が代替法が進んでいる印象です。

日本でも少しずつ、取り入れている大学も今はありますが、、、

先生：実際、一部の実験はコンピューターシミュレーション化していましたね。結局、解剖は必要でしたけど。

留学を決意した後、親を説得して単身でオーストラリアに渡って受験を経て獣医大学に入学し、クラスメートの手助けもあってストレートで卒業して、オーストラリアの獣医師免許を取得できました。

その後、日本に戻ってきて国家試験を受け、日本の獣医師免許も取得したという流れです。



大学の解剖標本室の  
犬の胃のプラスチック標本



獣：オーストラリアと日本、どちらの免許もお持ちなのですね。医療系の単語を2カ国語で覚えるのは相当ハードそうです。私は Endoplasmic reticulum（小胞体）すらちんぷんかんぷんでした。笑

先生：確かに語学は大変でした…。しかし自分は「獣医師という職業に就くこと」を目的としていたわけではなく、「獣医学を学んで動物を助けられる知識と技術をもった人間になること」がそもそも獣医大学を目指した動機だったのもあってか、学ぶことはめちゃくちゃ楽しかったですし辛いとはあまり感じませんでした。

ちなみに、卒業してみて「大学の教育だけでは全然足りない。動物を助けられる知識と技術を得るためには、臨床で学び続けなければならない。」と思いついたんですけどね。



大学最終日の卒業セレモニー

獣：そこで卒後は臨床に進まれたわけですね。

先生：はい、日本で小動物臨床獣医師として勤務し始めました。

けど、数年間臨床をやった結果として「臨床でない分野の方が自分の特性を活かせるのでは？」と感じ、臨床の割合をフルタイムからパートタイム、フリーランスと減らしつつ、獣医療の通訳や翻訳の仕事をしたり獣医系の学会開催グループの補佐をしたりもしていました。

そんな折に、知人から「インドに興味のある獣医師を探している人がいる」との情報が出てきて、話を聞いてみたら面白そうだったのでそのままトントンとインドに行くことになりました(笑)。

獣：ものすごくフットワークが軽いというか、そもそもインドからお声がかかる人脈が凄いです。笑 海外で働く選択肢はずっと先生の中にあっただけではないでしょうか？

先生：アジア、特に東南アジアを視野に入れてはいましたが、インドはノーマークでしたね…流石に(笑)。インドの話が来たのは本当にご縁で、その1年ほど前から「毎月何かしらの理由で海外に行くようにしよう」という目標を立て、できる限り実行していました。具体的には、イタリアで開催された世界獣医麻酔会議(WCVA)や中国の学会に個人で参加、自分のメンターがインドネシアでセミナーをした時に自腹で付き人として同行、仕事でアメリカのペットエキスポや内科学会に通訳やアドバイザーとして同行など、海外関連のイベントに、時には借金をしてでも参加しました。結果、周囲の人から「英語や海外関連の話は靖えもん！」という印象を持ってもらえ、そういう話が自分に来やすくなったと思います。

獣：ただ待っていたのではなく、ご自分でご縁を掴みに行く努力をなさっていたんですね。さまざまな国に行かれていたんですね。

先生：そうですね。あと、フリーランスとして勤務をしていたために比較的動きやすかったこと、当時勤務していた2つの病院の人たちが快く送り出して下さったことも、すぐにそのご縁を掴めた理由でした。すぐには辞めにくい状況だったりしたら、インド行きにためらいが出ていたのではないかと思います。

獣：常勤ですと確かに、躊躇ってしまいそうです。院長と自分のみとかだと尚更ですよ。続いて、先生の通われていたオーストラリアの大学について教えてください。オーストラリアの獣医大学は日本と同じく6年制なのではないでしょうか？

先生：自分が入学した2005年時点では、当時オーストラリアにあった4つの大学の獣医科は5年制でした(今は7大学あり)。オーストラリアでは一般的な大学が3年制なので、一般の学科+2年という意味では日本と同じかもしれませんね。

しかし、在学中に自分の大学は直で獣医学科に入学することができなくなり、まず1年間普通の生物化学系の科に在籍してから獣医1年生に進学するカリキュラムに変わりました。なので、それ以降の学生にとっては「合計6年の過程」に変わったと思います(他大学については不明)。



スポンジを使った皮膚縫合のワークショップ

獣：在学中に変わるのはいんどいんですね。



獣：1学年の人数はどのくらいでしょうか？日本では国公立30-40人、私立100人前後ですが、

先生：私が入学した時のクラスメートは約80人でしたが、上記のカリキュラム変更が関連しているのか、**2年に進級した時に編入生が大量に増え120人くらいになったと記憶しています。**1.5倍の人数に急増したことで、試験の採点も実習も1.5倍になった教員の皆さんはひいひい言っていましたし、学生側も手術実習の患者さんが行き渡らず見学しかできないケースもありましたね…。

獣：授業がオンラインになるだけでもいますごく大変なのに、人数が大幅に変わるのはもっと大変そうですね。

入学の手続きはどのようになさったのでしょうか？

先生：高校卒業直後に関西の**外語専門学校に1年在籍**したので、そこに併設されていたエージェントがオーストラリアの語学学校と**Foundation course**という大学入学準備&入試コースの**アプライ**までは手伝ってくれたと記憶しています。

Foundation courseというのは、**母国での最終学歴が高卒以下の留学生がオーストラリアで大学に入学するために履修する1年間のコース**です。そこに入学した後は、獣医大学を受験するのに必要な教科の選択や大学への出願などはFoundation courseの先生たちがサポートしてくれました。



Foundation Courseの  
留学生用英語クラス

獣：Foundation Courseというのは留学生にとって必須なのでしょうか？

先生：最終学歴が高卒以下なら必須です。日本の「高等学校卒業程度認定試験（旧大検）」と大学受験を合わせたようなものと言うとイメージしやすいかな。**履修内容は現地の高校3年生と同じで、大学の入試判定の内訳としては1年を通しての成績が50%、最後の統一試験の成績が50%を占めます。**受験生は第1希望からいくつか大学・学部を選択しておき、自分の入試判定の点数で入れる一番希望が上の大学・学部に入学が許可される、というシステムでした。

獣：日本のように入試一発で合否判定ではないのですね。1年間ずっと緊張し続けているようでとてもハードそうです。日本の大学には研究室や卒論がありますが、オーストラリアの大学にもあったのでしょうか？

先生：ありませんでしたね。**1~3年生は「獣医生物学」と言いますか、解剖とか生理、薬理、微生物、統計 etc**といった**基礎系**がメインで、**4・5年生が「獣医療学」**って感じなのですが、**4年生は午前中に臨床系の座学と午後の実習を週5でみっちり、5年生はローテーションで各科目を6~8人の固定グループで1年かけて回り**学びます。研究系がやりたい人は、3年終わった時にクラスから外れて、または卒業後に研究過程に進む感じでした。

獣：日本とかなりカリキュラムが違いますね。日本しか知らないのびっくりしています。

先生：あともう一つ、オーストラリアに無かったのが国家試験ですね。大学の卒業試験を合格し、無事に卒業できれば獣医師の資格がもらえ、各州の獣医師 Board に登録すれば晴れて獣医師の仲間入りになります。

獣：ありがとうございます。  
第2回の配信にてより深くオーストラリアの獣医大学での生活について伺っていきます！（文責：獣 TIMES 高際）



4年次の大動物実習



5年次のローテーションチームメイトと  
小動物内科の教員&動物看護師



ローテーション中のあるティータイム